



「森林整備事業における低コスト化の推進」

我が国の森林面積は国土面積の約3分の2にあたる約2,500万haであり、このうち約1,000万haが人工林で、その約半数以上が50年生以上となり、利用の時期を迎えています。このように人工林資源はかつてないほど充実していますが、木材の販売収入に対して、造林する経費（植付けや防護柵の設置など）が高い状況にあることから、伐採後に再び造林する経費を賄うことすら難しい状況にあります。

このような状況から脱出し、「伐る、使う、植える、育てる」といった森林資源の循環利用を確立させるためには、造林など森林整備事業の低コストを推進することが重要となっています。

○獣害防護柵設置コスト低減の取り組み

シカによる植栽木の食害被害は管内のほぼ全域で発生しており、その対策として、植栽した区域の周囲に網を張り、シカの侵入を防ぐ防護柵を設置しています。

防護柵に係る経費は植付事業費に占める割合が高く、防護柵設置に係るコストを抑えることが課題となっています。

近畿中国森林管理局では、防護柵に使用する支柱の一部に現地立木を利用することで資材コストの縮減を図っています。また、立木を支柱に利用することで従来の樹脂製支柱に比べ強度があり、積雪等による支柱の転倒や折損被害の防止を図るなど効果的・効率的な防護対策に取り組んでいます。



伐採の時期を迎えた林分



ドローンによる 「活動支援協定」締結

【石川森林管理署】

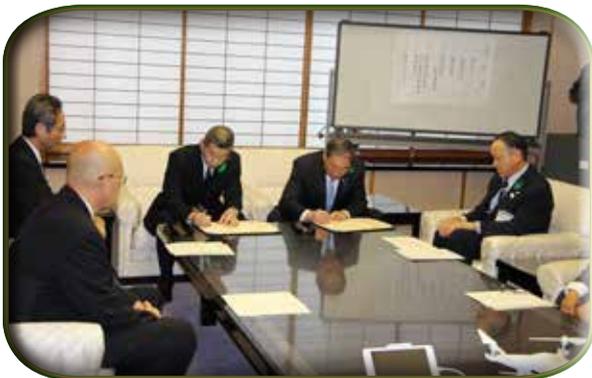
近年、異常気象がもたらす集中豪雨や地震等により、全国各地で林地崩壊などの大規模な林野災害が度々発生しており、その際の迅速な被害状況調査の必要性がより一層求められています。

そのような状況に遅滞なく対処するため、石川森林管理署は、5月30日（水）に白山市との「林野

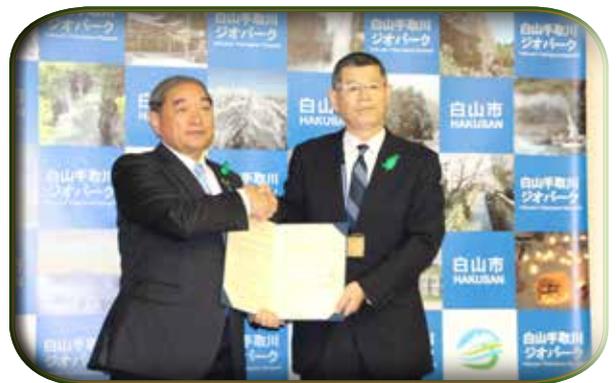


災害時等における無人航空機等を活用した活動支援に関する協定」を締結しました。

当署所管の国有林の約60%が所在し、日頃より国有林野事業の実行を通じて協力・連携している白山市の民有林において、林野災害が発生した際に、当署所有のドローン等を活用して被災状況の確認や撮影データの提供などの応急対策に関する活動支援を実施することにしたものです。



協定締結式は、立会として石川農林総合事務所長をはじめ関係者が出席し、白山市役所本庁舎5階の特別応接室で執り行われ、川上署長と山田市長がお互いに署名した協定書を取り交わし、多数詰めかけたテレビ・新聞各社の前で両名が握手して記念撮影を行いました。報道陣からは、協定締結の目的や協定相手方を白山市とした理由などについて質問がなされるなど、関心の高さが伺えました。



締結式終了後に予定していたドローンのデモ飛行は、当日が生憎の雨模様だったため、市役所隣の市民交流センターで実施しました。性能等に関する説明の後、当署職員がセンター吹き抜け部分の狭いエリア内でドローンを自在に操縦し、関係者はその見事な飛行に見入りました。

今後も石川県と連携し、各市の職員を対象とした講習会の開催などの取組を進めてまいります。



歩道整備で（新見市鯉が窪湿原） 『歩道も心もリフレッシュ』

【岡山森林管理署】

6月9日(土)に岡山県新見市の「鯉が窪湿原」において、3回目となる「JTの森鯉が窪にいみ」の森林保全活動が実施されました。JTグループ社員とその家族や中国地方内にある大学の学生のほか、自治体や地元の森林組合等の方々も運営スタッフとして参加しており、総勢約130名もの参加者が集まるとても賑やかなイベントとなりました。岡山森林管理署からは、5名の職員が運営スタッフとして参加しました。



午前中は、鯉が窪湿原内の歩道に設置されているベンチや階段の整備作業を行いました。クワやスコップを使って地面をならした後、ハンマーで階段の材料を地面に打ち込んでいくという少し大変な作業でしたが、参加者の皆さんは終始和気あいあいとした雰囲気の中、互いに協力してスムーズに作業を進めていき、およそ1時間ですべての作業を終えることができました。

作業完了と同時にちょうど湿原散策に来られた観光客の方々がお見えになりました。完成したばかりの新しい階段を使ってもらい、

「頑張って作ったものをこんな風に使ってもらえるんだ」と、参加者の方々が嬉しそうに顔を見合わせている様子が印象的でした。



午後は、テントの下で、木材を使ったオリジナルのペン立て作りを行いました。やすりがけや電動ドリルを使った穴あけはどれも地道な作業ですが、皆さん、とても熱心に丁寧に作業をされていて、約1時間後にはそれぞれのペン立てが立派に完成しました。参加者の方々はそれぞれの作品を手に「素敵なお土産ができた」と、とても満足そうな表情を見せてくれました。



本イベントでは、階段やベンチ修繕といった湿原内の整備活動だけでなく、木材を活用したペン立て作りを通じ、植物や木材に親しんでもらえる良い機会になりました。



第3回「山の日」全国大会・ 大山開山」1300年祭記念 「二代目大山並木松」を植樹

【鳥取森林管理署】

6月27日（水）、鳥取県西伯郡大山町の大山国有林において、大山小学校4、5年生の児童23名と、大山並木松に関する各行政機関、地元地区の招待者8名で、二代目大山並木松の植樹を行いました。

大山並木松は、約400年前の江戸時代に、大山寺中興の祖である豪円僧正が、雪の多い冬の参拝者の道しるべとして、山奉行に命じて植えさせたとされ、大山町指定の文化財となっています。1965年頃には90本ありましたが、松くい虫被害や高齢化のため枯損し、現在では21本まで減少しています。

二代目大山並木松の育成は、小学校が、地域



の自然や歴史を知る学習の一貫として、歴史のある並木松を後世に残そうと考えたのが始まりで、鳥取森林管理署並びに国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場が協力し、平成28年2月に1、2年生（現4、5年生）が種まき、接木を行い育成してきました。今回は、この接木した苗16本の植樹を行いました。

鳥取森林管理署職員の指導の下、地元の方々と児童が交代しながら穴を掘り、苗を入れ埋め戻し支柱を添えて1本ずつ丁寧に植樹しました。



植樹の後は、各班毎に並木松の樹高の測定に挑戦し、高さ10mの目印を基準に、指で間隔を取るなど、班の中で相談し、工夫しながら計っていました。測定後、答え合わせを行うと、「当たった！」と歓声があがっていました。その後、大山を背景に全員で「二代目並木松大きくなーれ」と唱和し記念撮影を行いました。



児童からは、「鍬が重かったけど、みんなと協力し一生懸命穴を掘って植えた。これから立派に育ててほしい」、「樹高の測定は初めてでとてもおもしろかった。自分が植えた松もどんどん伸びて大きくなってほしい」などの感想がありました。

「大山夏山開き祭」 「たいまつ行列」と「山頂で神事」

【鳥取森林管理署】

6月2（土）、3日（日）の両日、「大山夏山開き祭」が開催され、学生時代以来となる大山の登山に行ってきました。

前夜祭である2日は、夕方に大神山神社奥宮で安全祈願が行われた後、約2,000人が参加した、幻想的な「たいまつ行列」が神社参道を博労座広場まで約1.4Kmを練り歩きました。本年は、「大山開山1300年」ということもあって人出が多く、例年より多く用意されたたいまつもあっという間になくなったそうです。

また、博労座広場では、ステージイベントや地元の食を楽しむことができ、夜遅くまで賑わっていました。

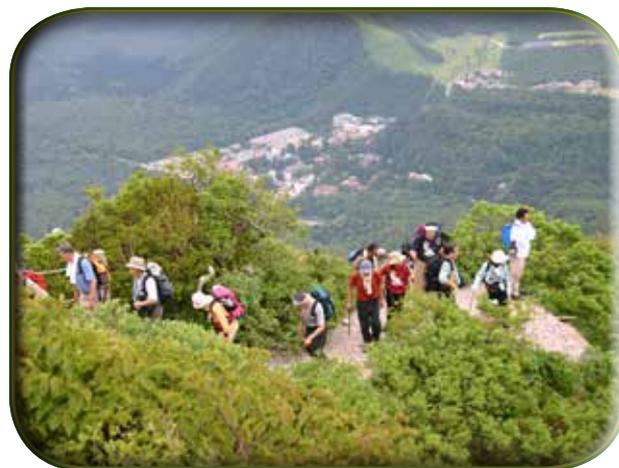


幻想的な雰囲気のないまつ行列

（撮影：真砂昇平氏（一社）大山観光局提供）

翌日は山開き本番です。山頂で登山者の安全を祈願する神事が行われるため、早朝から登山開始です。急な山道を約2時間半かけて登っていきます。当日は山開きということもあり、下山する人、登っていく人と狭い登山道が混雑していました。山頂付近では、イワ

カガミなどの高山性の植物が出迎えてくれ、登山の疲れを忘れさせてくれます。



汗びっしょりになりながらようやく山頂に到着すると、神事のための祭壇を作るのにも苦労するほど大混雑です。

神事は、頂上碑がある弥山山頂（1,709m）で行われ、大神山神社の神職が登山の安全を祈願し、関係者らが玉串をささげました。山頂まで訪れた約700人の登山客が参加し、頂上碑の周りを埋め尽くしました。

神事終了後、下山しましたが、下山途中も登ってくる人たちと道を譲りあわなければならないくらい混んでおり、登りよりも大変なくらいでした。



6月の気持ちの良い天候の中、心地よい疲れの中、明日の筋肉痛を心配しつつ帰路につきました。（鳥取森林管理署長 大賀 雅司）

山口農業高校で 「出前講座」開催

【山口森林管理事務所】

平成30年6月14日（木）、山口県立山口農業高等学校において、環境科学科（森林資源コース）の生徒を対象に、森林管理事務所職員が講師を務める出前講座を開催しました。

就職活動が近い3年生2名（男子1名、女子1名）と、まだ具体的な進路を決めかねている2年生11名（男子9名、女子2名）に対して、それぞれテーマを分けて講義を行いました。

毎年この時期に実施している出前講座では、森林・林業を学ぶ生徒の皆さんに国有林を進路の選択肢としていただくため、林野庁の組織や仕事、採用に向けた情報などを実体験なども交えながら紹介しており、今回で5回目の開催となります。

2年生を対象とした講座では、所長から林野庁の組織から国有林の概要や業務について、西山口森林事務所首席森林官からは森林官の仕事と魅力について、また、平木係員からは女性職員の活躍と公務員試験の体験談などの講義を行い、それぞれについて質問を受けました。



森林資源の循環利用の話については、「どのくらいのサイクル期間で循環できるのか」などの質問があり、また、森林官が現場に持って行く携行品では、予防対策としての「熊よけスプレー」や「ハチノック」などの普通では目にすることのない物に興味を持った様子でした。

3年生を対象とした講座では、受講者が国家公務員採用試験を受験志望しているということで、試験の概要などについての説明の後、どのような人材が求められているのか等についても、アドバイスを行いました。



講義の最後に、所長から「講義の時間が足りず、十分理解が得られなかったことについては、いつでも説明を行いますので、気軽に山口森林管理事務所にお越しください。」と受講者を後押しする言葉で出前講座を閉講しました。

今回受講された生徒の皆さんが無事試験に合格されるとともに、まだ進路を決めかねているみなさんも国有林を志望していただき、国有林のみならず森林・林業を支える新たな担い手として活躍されることを期待しています。

森林鉄道レジェンドによる トークセッション

【技術普及課】

5月28日（月）～6月22日（金）の間、「森林鉄道から広がる昔の林業展」と題して、昭和30年代前半までの国有林における木材運搬の主力を担ってきた「森林鉄道」にスポットをあて、戦後復興までの木材や林業の歴史を振り返る展示を行いました。



期間中の6月9日（土）には、特別企画として、林野庁OBで国有林森林鉄道の精通者である富士大学客員教授の矢部三雄氏、森林鉄道研究家の舛本成行氏、森林鉄道を愛してやまない林野庁職員高塚慎司課長補佐の森林鉄道に精通したレジェンド3名をパネラーにお迎えし、国有林では我が国初の森林鉄道トークセッションを開催しました。



矢部三雄氏



舛本成行氏



高塚慎司氏



当日は、3名のパネラーに勝るとも劣らない森林鉄道愛好家の方々80名により1階ギャラリーを埋めつくし、森林鉄道への思いや、森林鉄道愛好

家のみが理解できる単語やウンチクが飛び交うなか2時間のトークセッションを成功裏に終えることができました。



今まで見たことがない貴重な写真や森林鉄道の位置図の展示、パネラーからの説明に参加者からは、「またこのようなイベントを開催してほしい」、「現地を見てみたい」などのご要望やご意見をいただくなど、かなり高い評価を得る中、イベントを終了することができました。

お知らせ

各地のイベント

*見て・さわって・樹木と友だちになろう「夏」

日時：平成30年7月29日（日）

場所：近畿中国森林管理局1階
ギャラリー



*「夏休み親子見学デー」

日時：平成30年7月26日（木）27日（金）

場所：近畿農政局
京都大阪森林管理事務所が
国有林を展示紹介



*夏休み木工教室チェア作り

日時：平成30年8月9日（木）

場所：和歌山森林管理署
参加対象：田辺市・上富田町周辺
の小学5・6年生



シリーズ 『国有林 最前線!』

企画調整課 ～ 「国有林モニター」意見 行政に反映 ～

企画調整課は、予算調整、自然災害対応、監査、情報セキュリティ、林政の推進等、局内の幅広い業務を行っております。今回は、林政の推進の一つとして実施している「国有林モニター事業」についてご紹介いたします。

「国有林モニター事業」は、モニターの方からのご意見やご要望をお聞きして国有林野行政に反映させるために平成16年度からを実施しており、本年度は67名の方に「国有林モニター」をお願いしています。

モニターの方には、毎月林野庁が発行する「情報誌 林野（RINYA）」、近畿中国森林管理局が発行する「森のひろば」などの情報を送付させていただき、ご覧になった感想や日頃から国有林について感じていることなど、ご意見・要望として送付いただいているところであり、毎月寄せられる様々なご意見から、モニターの方の国有林に対する関心の高さを実感しているところです。

また、国有林モニター会議を実施しており、モニターの方を国有林へご案内し、間伐やシカ被害対策の実施箇所、治山ダムなどの現地見学を行ったあと、意見交換をさせていただいております。普段なかなか目にできない国有林の現場を見ていただくことで、国有林や森林・林業への理解を深めていただくよい機会となることを期待するものです。

モニターの方には1年を通じてこれらの取組にご協力いただき、いただいたご意見・ご要望を国民の声として行政に反映させることとします。



福井森林管理署 今庄森林事務所 森林官 坂口正司

今庄森林事務所は、福井県の福井市、鯖江市、越前町、池田町、南越前町を管轄区域としており国有林11団地約8,000haと官行造林2団地340haを管理しています。その中には貴重な野生昆虫が生息する夜叉ヶ池を保護する保護林や、保護林どうしをつなぐ「緑の回廊」、またレクリエーションの森などさまざまな森林があります。

部内の岩谷国有林には「夜叉ヶ池」があり、福井県と岐阜県との県境に位置し、標高1,099m、古くから水が涸れたことが無く、雨乞いの地として親しまれています。また、その神秘的なたたずまいから数々の伝説があり、特に夜叉姫伝説が有名で泉鏡花いずみきょうか（小説家）による「戯曲夜叉ヶ池」の舞台としても知られています。夜叉ヶ池にはここにしか生息していない絶滅危惧種のヤシャゲンゴロウが生息しており、ヤシャゲンゴロウの生息環境を保護するために周囲16haを夜叉ヶ池ヤシャゲンゴロウ希少個体群保護林として保護、保全に努めています。また農林水産省と環境省がヤシャゲンゴロウ保護増殖計画を発表し、現在は人工繁殖等の取り組みが行われています。ヤシャゲンゴウは種の保存法により捕獲等は禁止されており、夜叉ヶ池も環境保全のためには入山者に対し、マナーの啓蒙活動が重要となっています。



夜叉ヶ池